



医療安全基本用語集 (Vol.2)

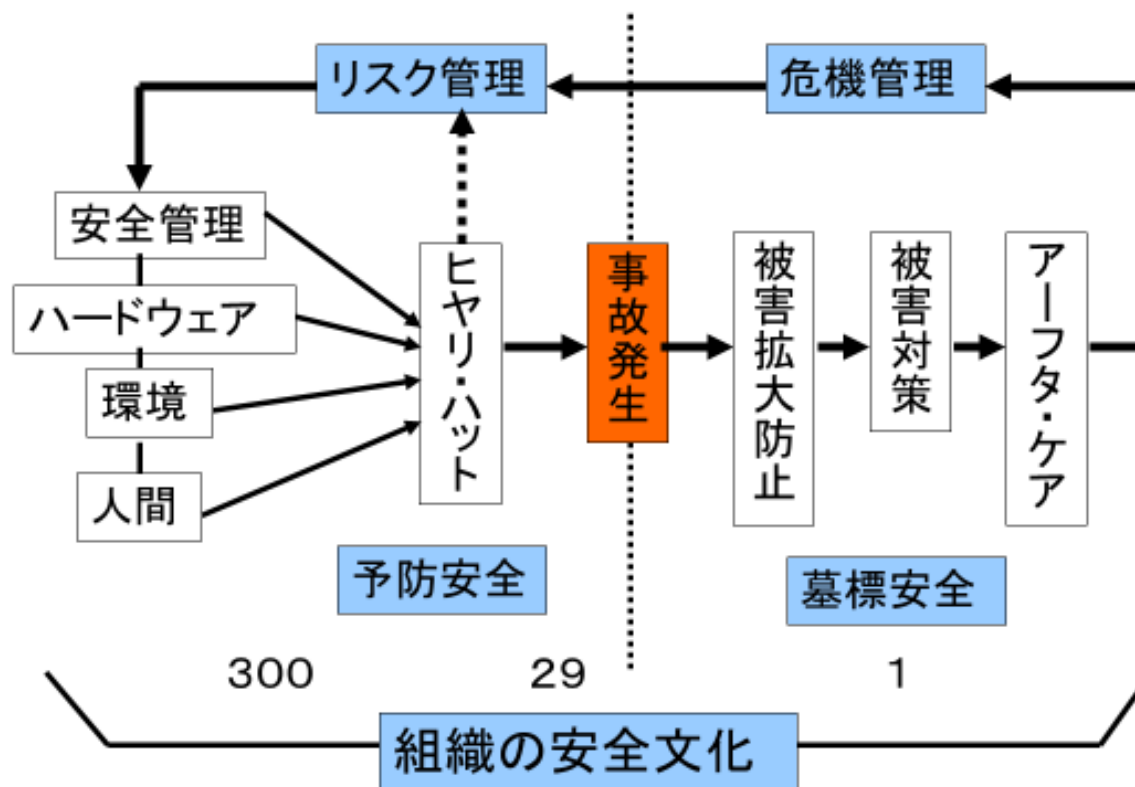
一般社団法人 日本医療安全学会
用語編纂委員会 発行

医療安全に関する学術用語の定義を明確にすることは学術発展の第1の基本です。
そのために、一般社団法人日本医療安全学会では用語編纂委員会を設置しています。
今後、追加用語を逐次掲載しますので、ご利用ください。

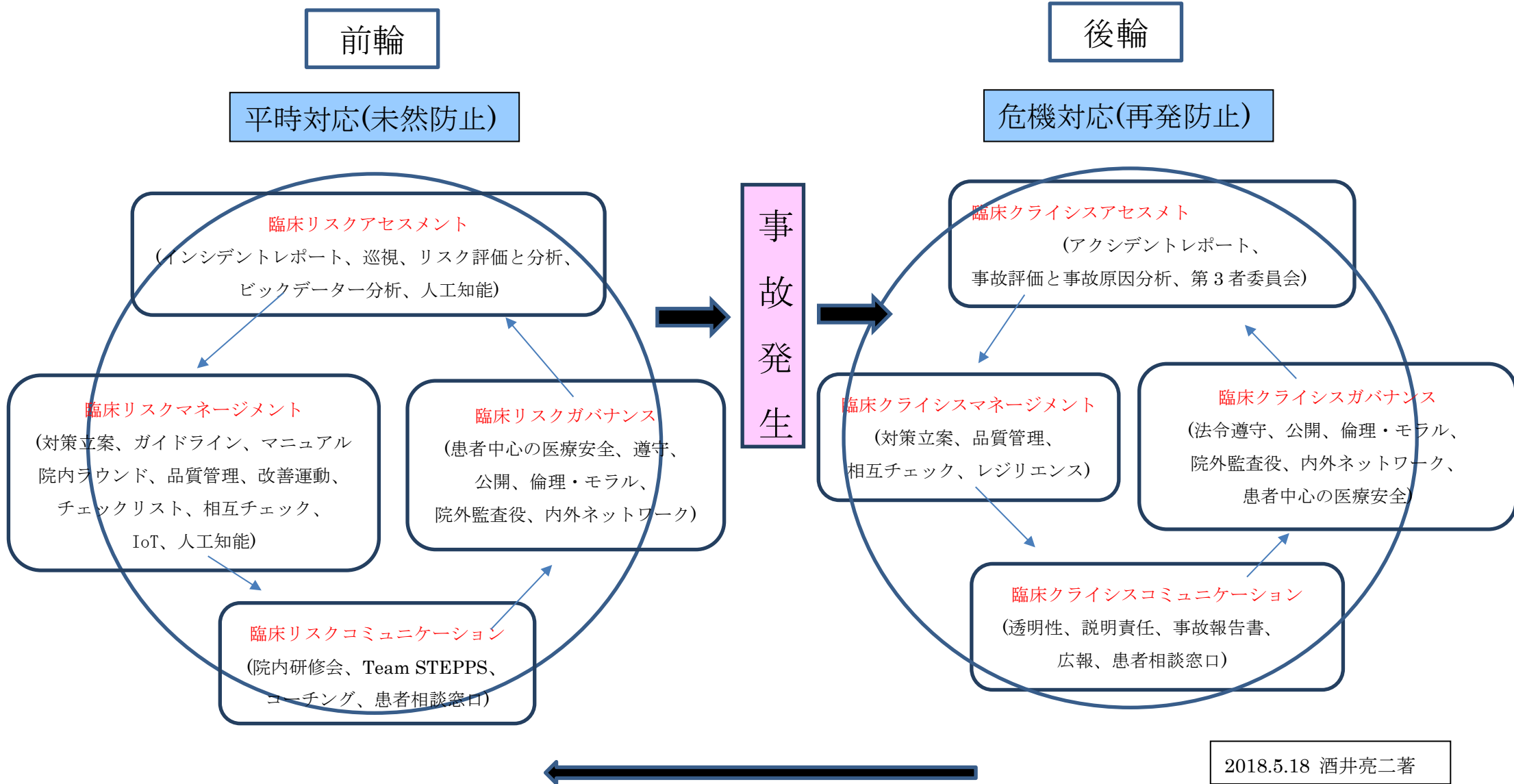
(用語編纂委員会 委員) 五十音順

岡田 有索、加藤 直樹、
小松原 明哲、◎酒井 亮二、
清野 敏一、辰巳 陽一、
長村 文孝、橋田 亨、
藤井 千枝子、深山 正久

リスクマネジメントシステムの概念図



医療安全文化の2循環モデル



・ **リスク (Risk)**

将来における発生する危険性のこと。実際に起きた危険はリスクとは言わない。

・ **リスク研究** 以下の4つのモジュールを循環して、公衆が納得できるレベルまでリスクを低減するシステムを構築する。

リスクアセスメント (risk assessment)

リスクマネジメント (risk management)

リスクコミュニケーション (risk communication)

リスクガバナンス (risk governance)

・ **院内ラウンド(院内パトロール)**

チェックリストに従って現場を点検する。

・ **品質管理** JISには2種類の考えが存在する。

品質マネジメント (Quality Management) 「品質要求事項を満たすことに焦点を合わせた品質マネジメントの一部」と定義する。

品質管理 (Quality Control) 「品質保証行為の一部をなすもので、部品やシステムが決められた要求を満たしていることを、前もって確認するための行為」と定義する。顧客に提供する商品およびサービスの品質を向上することを目的としている。現場では、この定義を使用する。

・ **リスクコミュニケーション**

「生存、健康、経済的または社会的幸福への脅威に直面している専門家や担当者間において、それらに関する情報、助言、意見などをリアルタイムに相互交換すること。」

出典：WHOの定める定義より引用。 (<http://www.who.int/risk-communication/faq/en/>)

・ **ガバメント(Government)**

組織経営層が定めた一定の規則に従って、組織構成員が活動するシステムのこと。拘束力のある統治システムである。

・ **ガバナンス(Governance)**

組織活動に対する関係者全員(医療では患者も含む)により組織の規則を意思決定し、合意形成するシステムのこと。

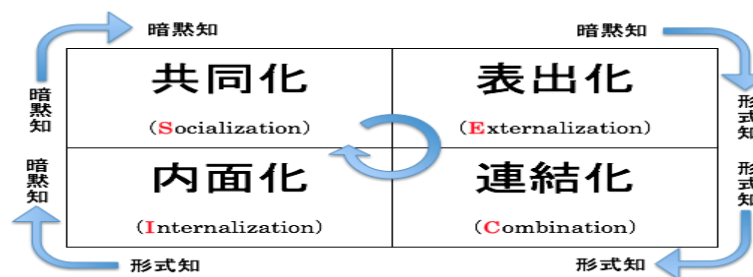
以下は加藤直樹編集委員の著述

・ナレッジマネジメント

「暗黙知（概念化できない知識）や個人知を表出して形式知（形式化、言語化、概念化された知識）や組織知（組織が共有する知識）に転換していくマネジメント。」

出典：井原久光. テキスト経営学(第3版). 東京：ミネルヴァ書房，2009：323から引用。

・SECIプロセス



出典：野中郁次郎，竹内弘高. 知識創造企業. 東京：東洋経済新報社，1996：93.

・共同化(Socialization)

個々人の暗黙知(思い)を、共通体験を通じ互いに共感し合う様式(モード)。

・表出化(Externalization)

共通の暗黙知から明示的な言葉や図で表現された形式知としてのコンセプトを創造する様式(モード)。

・連結化(Combination)

既存の形式知と新しい形式知を組み合わせる体系的な形式知を創造する様式(モード)。

・内面化(Internalization)

連結化によって得た体系的な形式知を実際に体験する事によって身に付け暗黙知として体化する様式(モード)。

以上、

出典：野中郁次郎，梅本勝博. 知識管理から知識経営へ-ナレッジマネジメントの最新動向-. 人工知能学会誌 2001：16：1：4-5.

- ・ **知識**

正当化された真なる信念であり、情報を認識し行動に至らしめる秩序。身体的技能や行動制御能力を含む広義の知識。

- ・ **知識伝授**

知識に関する情報やデータを伝えることで、他者に同様の知識を移転しようとする行動。ただし、完全な複製を意図するものではなく、初歩を教え(**initiate**)、その後は伝授を受けた側の個別性に従った展開と応用を許容する。

以上、

出典：村上成明．看護実践の知識伝授プロセスにみられる暗黙知伝授の有用性の検討-看護管理者の知識伝授体験より-日本看護管理学会誌 Vol 9,No2,2006 51.